

## 英国心臓疾患病院の設立とその軌跡

柳澤 波香

青山学院大学／津田塾大学

英国心臓疾患病院 (The National Heart Hospital, 以下 NHH) は 1857 年, 内科医スプラット (Eldridge Spratt, 1825?-1902) によりロンドンに設立された。NHH は 20 世紀末に閉院したが, 世界初の心臓疾患専門病院と目されている。その創設の経緯と英国の心臓病治療, 研究をリードした NHH の軌跡について報告する。

19 世紀のロンドンでは数多くの専門病院が篤志病院として相次いで設立されたが, スプラットは, 心臓疾患に悩む貧者の救済を目的とする病院を決意し, 篤志家から寄付を募り, ロンドンの Margaret Street 67 番地に診察室, 待合室, 病室 2 室 8 床の小規模な病院を開院した。1875 年, 病院は Soho Square に移転したが, スプラットによる従前からの病院資金および医薬品の私的流用が発覚し, 病院運営委員会はスプラットを解任した。スプラットはこれを不服とし, 院内の家具, 医療器具, 絵画などを夜中に強行奪取するという強硬手段に及んだ。このような混乱にも拘らず, グラスゴー伯爵を中心とする病院運営委員や篤志家の支援を得て, 病院は存続し, 1880 年代には運営も次第に順調となり, 病床数 22, 内科医 4 名, 病棟外科医 3 名, 看護婦 3 名, 使用人 3 名を擁した。1897 年には, 内科医シドニー・ラッセル＝ウェルズ (後のロンドン大学副総長) が病院の診療および運営に参画した。

心臓病学は 20 世紀に入って本格的な進展を遂げるが, 1903 年, 毛細管電流計を応用し, 電流の変化に応じて心臓が拍動する様子を 1887 年に世界で初めて記録した生理学者オーガスタス・D・ワラーが病院スタッフに加わった。更に, 同時代の英国の心臓病学をリードしたジェイムズ・マッケンジーおよびトマス・ルウィスの弟子の多くが NHH のスタッフとなり, 1910 年には病理診断部門および放射線部門が設置された。病床数の増加の必要性から, 病院の移転, 新築が必要となり, 1914 年, コノート公爵をパトロンに迎えて, ウェストモアランド・ストリート (Westmoreland Street) に新病院が開院した。1918 年に内科医として着任したジョン・パーキンソンは長年にわたり病院医師を務め, 1930 年にウォルフ・パーキンソン・ホワイト症候群に関する論文を発表した。

第二次世界大戦後, 1948 年, NHH は他の英国の病院と同様に NHS 傘下の病院となり, 心臓病の卒業教育病院の拠点のひとつとなった。1947 年には院内に Institute of Cardiology が設置され, ポール・ウッドが初代所長に就任し, 心臓病学を志す医師が英国内外から集まり, 研究施設整備も進んだ。1960 年代には世界的に心臓病学, 心臓外科学が進展したが, NHH は先天性心疾患の治療, 電気生理学研究の分野で貢献をなした。1968 年, 英国で初めての心臓移植手術が NHH で実施された (世界では 10 例目, 患者は 46 日後に死亡)。

1990 年, 以前から進められていた NHH とロイヤル・ブロンプトン病院との統合が決定し, 病院の機能が全て移転, 移管され, 1991 年に NHH は閉院となった。

NHH は閉院したが, 1994 年, シンガポールを拠点とするグレンイーグルス・グループ病院 (英国法人) が病院の建物を買取り, 内部を大改装し, 1997 年に最先端の医療設備を完備した私費診療の心臓疾患専門病院を開院した。しかし, 僅か数年後に経済的破綻をきたし, ユニヴァーシティ・コレッジ病院 (NHS) が 2700 万ポンドで病院を買ひ, 現在は一部の胸部外科診療と泌尿器科診療に利用している。瀟洒な外観は NHH の往時そのままである。なお, 現在, 英国で最大の心臓疾患治療センターは, Barts Cardiac Centre であるが, その治療と研究の第一線で活躍している医師の多くは, かつて NHH に学んだ経験を持つものが非常に多い。